

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第4号



2008年9月30日発行

発行責任者 岡田守弘

芳川玲子

〒259-1292

神奈川県平塚市北金目 1117

東海大学文学部心理・社会学科

平成19年度第2回研修会報告

平成19年度日本学校心理士会神奈川支部第2回研修会は以下のように行われました。

1. 日時：平成19年10月14日（日） 13:30～16:00
2. 会場：上大岡ウィリング横浜
3. 参加人数：108名
4. 講演：「いじめ防止プログラムの実践～生徒会活動への導入～」
講師：芳川 玲子 （東海大学文学部心理・社会学科）

①海外視察の概要

文部省主催の海外先進国研究実践支援事業の一環で、学校教育における安全教育の必要性を提言し海外視察を行う。

- ・中国・・・自殺者が多く、特に青少年の自殺とその防止というテーマで一ヶ月ほど滞在する。
- ・アメリカ・・・「いじめ防止プログラム」を見学。
- ・台湾・・・7年前の大震災の体験を踏まえた防災教育を見学。

②アメリカにおける取り組みの様子

(1) ルイス・リーディング・インターメディアエット・スクール

- ・日本の小5・6年生にあたる児童が在籍。
- ・すべての玄関がロックされていて、非常にセーフティーな学校。
- ・スクールサイコジストが常駐。
- ・「いじめ防止隊」・・・いじめ防止に興味がある子供たちが立候補。

<活動> いじめということを勉強して、いじめを認識すること
子供の目線で、教室の雰囲気や人間関係からいじめをキャッチすること
簡単ないじめ調査 「悪口を言われたことがありますか」
「不愉快な経験がありましたか」など

<メリット>

- ・ やってはいけないことや、どのように解決したらよいかなどのトレーニングを、スクールカウンセラーから受けているので、自信を持っていじめに立ち向かえる。
- ・ いじめの電話相談もあるが、年2・3件とかなり少ない。

(2) ワーナー・エレメンタリー・スクール

- ・ ニューアーク・シティー全体の教育委員会主催のワークショップを40～50歳くらいの女性弁護士一人で担当。
- ・ 5歳の子へのいじめのロールプレイであったり、小学校4年生以上は、先生に触るとスクー

ルポリスが来るなど新しいルールが始まることを知らせるドラマワークショップなど、多様なワークショップを行う。

(3) タウンセント・エレメンタリー・スクール

- ・ インクルージョンの学級では教師が二人。普通の担任と特別支援の先生。発達障害の子が二人いたが、ほとんど目立たなかった。授業は静かで私語もなく、先生の言うことを聞いていた。
- ・ 先生のキャリアにより、教室が落ち着いているか、落ち着かないかの関係があるという。

(4) カレッジ・スクール

- ・ デラウェア大学付属の軽度発達障害児対象の養護学校（私立）
- ・ スクールカウンセラーの卵(大学院生)がいじめプログラムを実施。
「人から、たとえば悪口を言われたときに、そして肩をぽんと叩かれたときにどうするのか」
「すごく相手は怒りをこちらに向かってだしている。そのときになんと言うか。」
→「怒っている顔ってどんな顔?」「怒っている顔を作ってごらん」
* いじめ防止プログラムだけでなく、表情認知や自己表現のプログラムにもなる。

(5) カバルスコン・アートネイティブ・スクール

- ・ 非行生徒を教育する学校で、いじめや非行行為をした子の中で学校では扱えなくなった生徒を教育する。
- ・ 学業不振がベースにあることが多いので、ゆったりとしたペースで教えている。
- ・ スクールポリス(女性)がいて、半分カウンセラーの役割をしている。
- ・ ルールを教えることから始める。(ルールがわからないから反則をする。何がいじめに当たるのがわからない。何が人の心を傷つけているのがわからない。)

③ アメリカの学校のいじめに対する姿勢

- ・ いじめは学校風土、学級風土、地域風土に問題が合ったときに発生する。
- ・ いじめが起きたときには、学級の中に何かが起きているのではないかと、それをひとつのサインとして、いじめという行動が発生するのではないかと考えている。

④ ボッシュ・プログラム（アメリカのいじめプログラム）

「Bully Free Classroom」いじめ教育のワークブック

第一部 いかに関教室環境を作るか。

第二部 いじめ教育の実際

- 1) いじめとは何か。
- 2) いじめられた時にどうするか。
- 3) 葛藤や困難なことを解決するための方法を、グループで考えさせる。
- 4) いじめは大きな怒りが背後にあっておこるもので、それに伴う情緒のコントロール（アンガー・マネジメント）をどうしたらいいか教える。

⑤ いじめが起こりやすい環境（イギリスのシェフィールド大学での調査）

<退屈> 退屈した時に、けんかやからかいが起こりやすい

<混雑> 動線ルートが子供の動きに合っていない時に、いじめ的なことがおきる。
(廊下が狭い、階段が使いにくいなど)

<片隅> 部活などに入っていない子が校庭の片隅にしかいる場所がなく、いじめ的なからかいはじめめ的な行動に走るのではないかと。

<孤立> 仲間作りで、余暇の時間を過ごせることが、授業以外のいじめ防止に大事。

* 子供の心に家庭的な要素や、もともと持っている衝動のコントロールのしにくさがある子も、環境が整っていれば、もともと持っているストレスを出しやすくなるし、出やすくなると思う。逆に、学校環境や学級環境が、子供たちにとって安心して、自分自身の達成感を持つこ

とができれば、そこでいじめは発生しないし、発生することも少なくなるのではないかとと思われる。

- * アメリカではいじめの定義にこだわらず、「何がいじめか」「クラスの中でどんなことが起こったら、いじめと思うか」ということを、子供たちと話し合いをすることが大事。

⑥演習

<ワークシート①>「いじめ」か「からかい」かの分類

- * 一見、人を傷つけていない行動でも、人によっては、いじめになってしまう。人の心を、ちょっとからかっていいのではないかと思うものも、実はとても本人の心を傷つけてしまうかもしれないなどを、いかに子供たちに認識させるかのプログラム。

<ワークシート②>誰かに本当に傷つけられそうになったときにどうするか？

- * 迷ったりせずに、何らかの形で助けを求める。自分自身を守ることは大事なことを繰り返し伝えるプログラム。

<ワークシート③>冷静に物事を対処する方法

- * 人は誰でも、いじめられる側になることがあるし、いじめる側になる可能性がある。
- * ロールプレイで「なんてあなたは幼稚なの」と言われた時に、どう対処したらよいかなどのプログラム。

<ワークシート④>いじめ防止隊に送られてきた手紙に答えるプログラム

- * いじめと思われる場面を考え、いじめられている立場だったら、どう対処したらよいか。またその場面を傍観している立場だったらどうするかなどをグループディスカッションするプログラム。
- * 「いつも一人ぼっち、どうしたら友達ができるか」を、みんなに考えさせ、いろいろな意見を出させ、普段から孤立しそうな子がいないクラスを意識させるプログラム。
 - いじめ防止に関する事柄は、いろいろな教育の場面で教材として使える。いろいろな教科、部活動の中で活用することにより、学級経営にも還元できるし、子供たちの思いやりの心を育てることもできる。

5. 秦野市立本町中学校での実践報告

秦野市立本町中学校長 古屋 茂

ピアサポート・プログラム。

6回シリーズ（H19.10.18～12月）放課後50分間、生徒会で実施。

生徒指導困難校で授業離脱生徒が20名くらいおり、教員の加配あり。

生徒会保健委員会の心の健康に関する調査で、7割近い生徒がいじめに近い状況を経験。

個別に対応してきたが、子供たち自身からも何か取り組みをしたいという意見が出てきた。

生徒会独自のアンケートをとり、それをもとにシンポジウム(全校集会)を開いた。

- ・ いじめた経験のある事例、いじめられた経験の事例、傍観的な立場の事例を発表、
- ・ スローガンを作り、挨拶運動をかねたキャンペーンを実施
- ・ 文化祭で調査結果をポスター発表。
- ・ 広報委員会が本町中新聞にキャンペーンを取り上げる
- ・ PTAも啓発活動を実施

(生徒会の感想)

- ・ 今後も続けていきたいという要望がでる。
- ・ 部活動で上級生は後輩に一生懸命教えているつもりであるが、後輩からすると厳しいと感じているという感じ方の違い
- ・ 授業離脱する生徒について、皆でサポートして仲間としてクラスの中に取り入れたい。
- ・ クラスがいい人間関係を作れるようなものでありたい、など。

(今年度の活動について)

- ・ 今年は、いろいろと相談しながら、どう解決したらよいかの仲立ちをするようなことをやりたい(ピアサポート)。
- ・ 参加対象は生徒会本部役員と各学年からリーダー的な生徒が各4人参加。

- ・ 引き続き防止キャンペーンも行う。
- ・ 生徒会の活動に教員も参加応援し、教員の意識も高める。

6. まとめ

- ・ ピアサポーターが、根本的に目指すのは、豊かな人間関係づくりを、そのチームになっているメンバーがさらに深めていけること。さらに、先生方がそれを生かしながら、今度は自分の学級の中で展開して深めていくこと。学校の中で自主性を伸ばす場所として生徒会があったので、今回はそれを活用し、子供たちに自信と達成感を得ることができるようにした。6回のプログラム終了後に、校長から修了証書を授与した。
- ・ いじめ防止＝もっといい対人関係を作れる学級経営
- ・ プログラムのモデル

自分の気持ちと考えをどのように認識するか

ストレス・マネジメントをどうするか

怒りをどう処理するか

- * 子供たち自身が、より生き生きとした、より豊かな人間関係を持つことを根本的な最終目標としたい。

地区会報告

＜県北地区の活動報告＞事務局：泉原恭子、松村茂治

県北地区会は、相模原市・座間市・綾瀬市・海老名市・厚木市・愛川町・清川村に勤務または居住の方を中心に活動を行っております。現在、地区会員数は46人となりました。当初は、セシリア短大や法政大学などの教室をお借りして地区会を開いておりましたが、最近は、会場を相模原市の「プロミティーふちのべ」に移し実施しております。

県北地区会では、多様な職種の方で構成されていることを特徴としていることを生かし、会員が交代で話題提供し、各自の活動内容を報告したり、テーマを掲げて発表し、意見交換をしながらスキルアップに励んでいます。昨年のテーマを紹介しますと、「発達障害と非社会的非行との関連と処遇」「多様な子どもの姿に応じることができる学級・学校づくり～富士見 SST プランと学校経営～」 「神奈川県警少年相談・保護センターの活動内容の紹介と相模原地区関係機関との連携のとり方」となっており、毎回、興味深い内容となっております。

地区会のお知らせは、メーリングリストで配信しておりますので、興味ある方は県北地区事務局、または神奈川支部事務局までご連絡下さい。他地区会の方々の参加もお待ちしております。

お知らせ

平成20年度学校心理士会神奈川支部第10回総会において、支部会員の研修会参加の機会を確保するために、年2回開催していた研修会を3回実施することが了承されました。第2回研修会は10月19日(日)に上大岡ウィリング横浜、第3回は平成21年3月14日(土)に鎌倉女子大学で開催予定となっております。詳細は、後日送付される神奈川支部からのお便りをご覧ください。

編集後記

神奈川支部では、研修会に出席なされなかった会員の皆様にも、講演内容をお知らせするために、研修会の内容を中心にニューズレターを発行しております。

紙面に対するご意見ご要望をお待ちしております。また、投稿も歓迎です。

E-mail : spkanagawa@yahoo.co.jp (編集部)